

令和5年度 流山市立八木南小学校
学校評価に係る意識調査（保護者、児童、教職員）についての考察

1 「教育活動評価アンケート」集計表（対象：保護者）

（1）成果

昨年度同様、「学校は楽しそうである」という項目で、最高評価を得ました。学校として何より喜ばしいことです。その理由として、家庭との連絡や相談をきちんと行い情報共有を適切に行っていること、教職員が熱意を持って教育にあたり一人ひとりの子どもを大切にしていること、個別のニーズに合わせた指導やサポートに留意していること等が関係していると考えます。授業内容や指導方法を工夫し、児童の興味を引きつける工夫を続け、学校がより楽しくなるように努めてまいります。

（2）課題・改善策

あいさつをすることや望ましい生活習慣を身につけること、家庭学習や読書、運動に取り組むなどの評価が低いことから、社会に出て役立つ生きる力の育成が求められていると考えます。ICT機器を活用したり、家庭や地域との連携を強化したりし、教育手法や工夫を多様に取り入れていき、児童の力をより引き上げてまいります。

2 「教育活動評価アンケート」集計表（対象：児童）

（1）成果

本校児童の良さである「友達や教師に対する信頼や関係の深さ」が評価の高さに表れました。友達とは様々なことを一緒に共有し、学び、成長していく。それを先生たちが見守ってくれ、認められたり、褒めてくれたりしてくれる、と感じているようです。そのため、学校の決まりを守り、物を大切に、掃除に一生懸命取り組むなど、望ましい学校生活が送れていると考えています。

（2）課題・改善策

昨年度よりの課題である読書、音読、図書室利用など、本・図書に関わる項目の評価は横ばいもしくは下降傾向にありました。ブックガチャの導入を図ったり、図書室側面掲示の充実に努めたりしてきましたが、結果には表れてはいません。近年、下降傾向にあった運動に関する項目に、改善の傾向が見られ始めてきました。今年度行ったミニバスやなわとびの特別講師の招聘などが、影響したと考えます。本・図書に関しても、来年度に改善を図っていきたいと考えます。

3 「教育活動評価アンケート」集計表（対象：教職員）

（1）成果

本校の子どもたちの特性を十分に認識し、教育をできる喜び、ともに生活する充実感を味わっていることがわかる結果となりました。マナーや思いやりがある児童に対し、教職員は、笑顔や豊かな表情で接し、熱意をもって教育に当たり、いじめや不登校で悩む子がいないよう、子どもたちが楽しく学校に通えるよう尽力している様子がうかがえました。

何かが起きたときには、誠意とスピードを意識し、適切な支援をしたり、相談に乗ったりするよう心がけていることもわかりました。

（2）課題・改善策

昨年度よりの課題である本・図書に関わる項目は、芳しくない評価でした。ICT機器の活用に関しては、教職員自体も不十分さを感じているようです。必要な機器をうまく活用しながら、わかる授業・楽しい授業につなげていきたいと考えます。

4 総括

今後も、児童が毎日を笑顔で楽しく登校できる学校づくりを目指します。家庭との連携と対応に意識を高め、家庭とのよりよいパートナーシップを築き、児童の問題や課題に迅速に対応してまいります。よりよい学習環境の整備やいじめ防止に取り組み、ICT機器を活用したり、本・図書に関する時間や場の確保・意識の向上を図ったりしながら、継続的な研修や自己研鑽を行いつつ、児童の学習意欲及び学力を高めてまいります。

本校の理念である「えがおとつながりを大切に作る学校」を明確にし、教職員が共通の目標に向かって協力し合えるよう、今後も尽力してまいります。